

## 平成29年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、本校生徒の実態を踏まえて、魅力ある定時制通信制教育の推進に努めてきた。さまざまな問題を抱えた生徒たちが、卒業後社会人として自立し、逞しく生きる力を身につけるため、今年度も引き続き、生徒の実態に即した組織的で効果的な指導体制の充実を図るとともに、個々に対応したきめ細かな支援を行った。今年度は6つの重点課題の改善に取り組んだ。

学習活動（1）では重点課題「学習習慣の確立と単位修得・資格取得」として、通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が身に付いていないため基礎学力の定着度が低いという現状を踏まえて、ガイダンスや面接、受講指導を充実させるとともに、生徒の実態に応じて指導内容や課題、指導方法・評価などを工夫し、自主的な学習習慣の形成を図るよう努めた。

学習活動（2）では重点課題「学校図書館の利用促進」として、旧校舎の頃より生徒数が増加しているにもかかわらず貸出数が減少しているという現状を踏まえて、オリエンテーションの実施、「おすすめ本」リストの作成、見本の展示、年2回「読書会」の開催等に努めた。

学校生活（1）では重点課題「生徒指導体制の確立」として、携帯電話・スマートフォン等による不適切な書き込みや画像の掲載等が多く見られるという現状を踏まえて、生徒集会や各年次集会等で不適切な書き込みや画像の掲載に関する注意喚起を行い、雄峰高校全体のネットトラブル防止を図った。また、4課程（昼間・夜間、通信、専攻科）を有することから一体感を持った生徒指導が難しいという現状を踏まえて、「さわやか運動」において、各課程の生徒・教員・保護者が協力して挨拶や身だしなみ、交通安全等の声かけ、校舎周辺の清掃活動に取り組んだ。6月には町内会長にも参加協力いただいた。

学校生活（2）では重点課題「学習環境の整備」として、4課程で校舎を共有するため使用頻度が高く汚れやすい、また、環境美化やゴミの分別に関する生徒の意識が高くないという現状を踏まえて、美化月間の設置、厚生委員・生徒会役員・ボランティア生徒での校舎内外清掃、ポスター掲示によるYOUホール利用マナーの向上、清掃評価の実施等に努めた。

進路支援では重点課題「進路実現をめざす支援活動」として、進路決定の際に知識や情報が不足している生徒が多い、進路意識や学力などに大きな個人差があり一斉の進路学習は難しいという現状を踏まえて、東京方面の大学等訪問を中心にした進路研修、上級学校より講師を招いての講義、企業より講師を招き講演をいただく就職教室等の充実にも努めた。

特別活動では重点課題「生徒が主体となる自主的な学校行事の推進」として、日程や校時の相違から各課程間の交流の機会が極めて少ない、また、生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的であるという現状を踏まえて、4課程合同の学園祭生徒実行委員会を中心にした学園祭の運営、全校生徒に呼びかけて行った学園祭生徒実行委員会企画のバルーンゲート作製等に努めた。

### 7 次年度に向けての課題と方策

今年度も生徒の実態を踏まえた「個に応じた学習活動」「社会的自立に向けた能力を身につける」ための支援に重点を置き、4課程が連携して具体的な方策に取り組んできた。今後は修学意欲や進路意識、環境美化意識等の向上を図るための取り組みが重要である。また、スマートフォン等の使用におけるルール作りを通して、ネットの適切な使用につなげたい。

(様式5)

## 8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成29年度 雄峰高等学校アクションプラン -No.1-	
重点項目	学習活動 【その1】
重点課題	学習習慣の確立と単位修得・資格取得
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭環境や生育歴に幅があり、生活力・体力・学力の格差が大きい。</li> <li>通常の学校生活に困難を抱える生徒が多く、学習習慣が身に付いていないため基礎学力の定着度が低い。また通信制では、健康面や社会性で問題があったり様々な経緯で入学したりする現状もある。</li> <li>専攻科では、生徒の実態が多様であるため、知識・関心の度合いに幅が大きく、一斉指導が難しい。また、実習の作業工程を理解できない生徒が増加している。</li> <li>近年の単位修得率に関して、定時制昼単*が75%強、夜単*70%強、通信制では約70%となっている。 *昼単：昼間単位制 夜単：夜間単位制</li> </ul>
達成目標	<b>【定時制】</b> 単位修得率〔昼単〕80%以上〔夜単〕75%以上 *共に前期の集計とする <b>【通信制】</b> 単位修得率 75%以上 *前期の集計とする <b>【専攻科】</b> 資格取得に向けて理論に基づいた技能を定着させる。*学年末試験での確認とする
方 策	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業までの学習計画を明確にするため、ガイダンスや面接をより充実させる。</li> <li>生徒の実態に応じて指導内容や課題、指導方法・評価などを工夫し、自主的な学習習慣の形成を図る。</li> <li>教員間で連携して指導にあたりるとともに、生徒への支援や保護者との連絡・相談をより充実させる。</li> </ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部・総年次主任・担任が連携して、卒業に向けた単位修得が進むような受講指導を工夫する。</li> <li>生徒の学習状況を把握し、学習過程や成果を評価することで自学自習の意欲を向上させる。</li> <li>生徒と担任・科目担当者との面談を充実させ、より個に応じた学習指導を行う。</li> </ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員間で生徒の情報交換を密にして指導法をより工夫する。</li> <li>予習・復習の時間を設定して学習効果を高め、実技の定着を図る。</li> </ul>
達成度	<b>【定・昼単】</b> 単位修得率 76.7% <b>【定・夜単】</b> 単位修得率 83.0% <b>【通信制】</b> 単位修得率 71.4% *定・通共に前期の集計 <b>【専攻科】</b> 8割以上の生徒に技能を定着させることができた。
具体的な取組状況	<b>【定時制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラス別の講座出席状況を週毎に担任に連絡し、遅刻や欠席が目立つ生徒への早期対応、継続的な助言・相談を行った。</li> <li>生徒個別の進路目標に基づき、面談や保護者懇談・ガイダンスを実施した。</li> <li>生育歴や家庭状況などの情報を共有し、生徒の特性に配慮した教科指導や個別課題による指導を行った。</li> </ul> <b>【通信制】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望者対象の時間割の作成例を校内広報誌に掲載し、生徒に意識喚起した。</li> <li>スクーリングや面談、個別添削などを通じて生徒の学習状況を把握し、学習意欲を高める工夫をした。</li> <li>個別面談をスクーリング日を問わず行った。特に卒業年次では各生徒の進路実現に向けて手厚く支援した。</li> </ul> <b>【専攻科】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の出席状況や進路目標などの情報を教員間で共有し、個々に応じた指導法や課題の工夫を行った。</li> <li>映像による予習・復習時間を設定し、さらに自学自習の実施によって学習効果を高め、技能の定着を図った。</li> </ul> <b>【全校での取り組み】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善プログラムにより課程や教科の枠を越えた研修を行い、より主体的で対話を交えたわかりやすい学習指導について研究を行った。</li> </ul>
評 価	C ・定時制・通信制では昨年度までの単位修得率を上回ることはできなかった。これは、学力面よりも出席状況が大きな要因となっている。また、専攻科での技能定着度も例年並みであった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得率は不登校生も含む数字であることからすると、登校生の修得率はかなり高いと言える。</li> <li>単位の修得は能力的な面より、出席率によるところが大きいと聞く。出席率の向上に向けた取り組みが望まれる。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への出席率改善のため、校内分掌間の連携と対策をさらに進め、生徒が目標をもって意欲を継続し、学修するような方策を講じる。</li> <li>不登校傾向など問題を抱える生徒に対してカウンセラーなど専門家や外部機関と連携を強化し、学業や進路への意識改善を図る。</li> <li>多様な生徒への効果的な学習指導を工夫するため、授業改善プログラムなど研修方法を検討する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学習活動【その2】	
重点課題	学校図書館の利用促進	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が新築移転後してから4年が経過し、生徒数が増加しているにもかかわらず、平成28年度は貸出数が4年前より減少している。</li> <li>・今年度の4月に図書館アンケートを実施したところ、図書館に行ったことのある定時制の生徒は65.3%、行ったことの無い生徒は34.7%であった。</li> <li>・読書習慣のある生徒は限られており、教科書以外は読書をしたことのない生徒もいる。</li> <li>・夏期休業中に読書感想文の課題を出し、図書館利用を呼びかけているが、利用する生徒は限られている。</li> </ul>	
達成目標	図書館に行ったことのある定時制生徒の割合	
	70%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館を利用していない生徒の理由を探り、対策をたてる。</li> <li>・図書委員全員と先生全員による「おすすめ本」リストを作成し、見本を学園祭で展示したり、図書館だより「本の森」や電子掲示板で紹介したりすることで、読書への興味・関心を高める。</li> <li>・年2回以上「読書会」を開催し、本に触れる機会をつくる。</li> <li>・教科や学年と連携し図書館の利用を呼びかけたり、オリエンテーションを実施したりすることで、生徒に図書館を知ってもらう機会をつくる。</li> </ul>	
達成度	65.2% (1月のアンケート結果)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、新入生に図書館オリエンテーションを実施した。</li> <li>・7月「読書会」、2月「朗読会」を実施したところ、図書委員を中心に多くの生徒の参加があった。</li> <li>・図書委員全員による「おすすめ本」リストを作成し、学園祭で展示した。</li> <li>・教職員による「おすすめ本」リストを作成し、展示した。</li> </ul>	
評 価	C	現状維持
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本が好きな人は孤独に強くなれるし、自分自身を強くもてる。本を好きになってももらえるような取り組みが望まれる。</li> <li>・読書離れが進んでいる世の中だからこそ、読書に対する啓蒙活動が大切である。読書会や朗読会を続けていってほしい。</li> <li>・おもしろくなければ読んでもらえない。大衆的な本でも教えられることは多い。マンガ等の易しいものから難しいものに移ることもある。どのような図書を入れるか、知恵を絞ってほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が行きたくなる図書館を目指し、生徒アンケートで書籍や雑誌などのニーズを把握する。</li> <li>・図書委員によるイベントを企画する。</li> <li>・昼間3年次の利用者は、4月63.6%から1月75.0%と上昇した。進路関係で図書館を利用する機会が増えたと思われる。1年次の利用者は、新入生オリエンテーションを実施した成果から、72.2%となった。他の年次等では、利用者が減っている。このことから、図書館をあまり利用しない年次等へ、アプローチを図ることが必要である。</li> </ul>	

重点項目	学校生活 【その1】	
重点課題	生徒指導体制の確立	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校は、4課程を有することから、一体感を持った生徒指導が難しい。登下校指導については、近年の取り組みにより連携が取れるようになってきているが、生徒の登下校時間が課程によってまちまちであり、普段はそれぞれの課程が独自に指導している。4課程が連携して指導できる体制が不十分などころもある。</li> <li>昼間では、重大なネットトラブルはないものの、夜間・通信制・専攻科に比べ、携帯電話・スマートフォン等による不適切な書き込みや画像の掲載等が多く見られる。</li> </ul>	
達成目標	① 4課程合同の登下校指導を実施	② 不適切な書き込みや画像の掲載によるネットトラブル防止の啓発活動を実施
	前期2日、後期2日以上	年2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月、10月の「さわやか運動」期間中に登下校指導強化週間を設ける。朝の登校時は、昼間・通信・専攻科教員が、夕方の昼間の下校と夜間の登校時には、昼間・夜間教員が、夜間の下校時には夜間教員が協力して指導にあたる。また、PTAや地域の方々にも参加を呼びかけ、活動の充実を図る。</li> <li>挨拶、身だしなみ、交通安全、不審者への注意等の声かけを行い、登下校時の生徒指導全般について課程を越えて指導にあたることによって、指導体制の充実につなげる。</li> <li>生徒集会や各年次集会等で不適切な書き込みや画像の掲載防止のリーフレットの活用や注意喚起を行い、雄峰高校全体のネットトラブル防止を図る。</li> </ul>	
達成度	前期3日、後期3日 実施	前期1回、後期1回 実施 年2回 達成
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月と10月の「さわやか運動」では、各課程の生徒・教員・保護者が協力して挨拶や身だしなみ、交通安全等の声かけ、校舎周辺の清掃活動に取り組んだ。6月には町内会長の参加協力もあった。</li> <li>ネット関係で問題のあった生徒には、個別指導を行った。</li> <li>生徒集会等で校舎内での携帯電話やスマートフォンの使用について、生徒に注意喚起するとともに、歩行しながらの使用については、その都度、指導した。</li> </ul>	
評 価	B	・さわやか運動では、生徒会を中心に積極的に活動した。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛宕地区では年4回、清掃活動を行っている。学校と合同で取り組めるとよい。地域としては学校から要請があれば協力できる。</li> <li>生徒の側から地域と共に活動したいという動きが出るような学校の働きかけが望まれる。</li> <li>地区の文化祭への出品、生徒作品も大歓迎である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会、校紀委員会を中心に生徒主体のさわやか運動の継続を図る。</li> <li>校内でのスマートフォン等の使用についてのルール作りを進める。</li> <li>ネット関係の不適切な書き込みや画像掲載の減少に努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	学校生活【その2】	
重点課題	学習環境の整備	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎を4課程で共有して使用しているため、使用頻度が高く汚れやすい。</li> <li>・行事や授業形態の都合上、使用後に清掃時間がとれず清掃が徹底できない場合がある。</li> <li>・環境美化やゴミの分別について、生徒の意識が十分でない。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃評価Aの月間平均、前・後期それぞれ90%以上</li> </ul>	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各課程の美化活動を増やすことで、学校全体の学習環境を維持する。</li> <li>・各課程の実情に応じて目標設定して環境整備に取り組み、清掃評価を通して学習環境に対する意識を高める。</li> <li>・評価は各課程の清掃監督または厚生委員が行う。 A：大変きれいになった B：きれいになった C：きれいではない</li> <li>・美化月間に週2回、各課程の希望者や厚生委員が登校時に清掃を行う。</li> <li>・ポスター掲示などによって、ゴミの分別の徹底を呼びかける。</li> </ul>	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃評価A 前期92.5%、後期91.4%で、目標を達成できた。</li> </ul>	
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化月間をもうけ、月・木とさわやか運動週間の登校時に、厚生委員・生徒会役員・ボランティア生徒で、校舎内外の清掃を行った。後期の方が1回当たりの参加人数が増えた。(前期平均約7名、後期平均約11名)</li> <li>・各課程で清掃評価を実施し、美化意識の向上を図った。</li> <li>・ポスター掲示などでゴミの分別を呼びかけた。少しずつ改善してきている。</li> <li>・昼食時にYOUホールの使用状況を見回ったり、ポスターを掲示したりして利用マナーの改善を図った。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数的には達成できたが、美化月間だけでなく日頃からの美化意識を高めさせたい。</li> </ul>
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における基本の基本である整理整頓がきちんと身につくよう、今後も指導をお願いしたい。</li> <li>・新校舎に移って5年になる。きれいな状態だと人は汚さない。今後もこの状態を維持できるような取り組みが大切である。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンハイスクール等の行事前後の清掃徹底を図る。</li> <li>・積極的に美化活動に取り組むよう、日頃からの意識の向上を図る。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	進路支援
重点課題	進路実現をめざす支援活動
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の目標が卒業だけに向きがちで、卒業後の進路まで考えさせる指導が必要である。</li> <li>・進路を決定する際に進路に関する知識や情報が不足している生徒が多く、進路意識を向上させる必要がある。</li> <li>・進路志望に毎年ばらつきがあり、年間の一斉の進路指導が行いにくい。</li> <li>・進路意識、学力などに個人差があり、一斉の進路学習には工夫を要するため生徒の実態に応じた個別指導を行う必要がある。</li> </ul>
達成目標	<p>年度末での進路先決定率 90 %以上</p> <p>(就職に関しては志望が明確で就職活動を行う生徒を対象とする。 進学に関しては第一志望に限定しない。)</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査を踏まえて担任と進路指導部の連携による個別指導を行い、1・2年次の早期進路学習(進路意識の向上)に取り組む。</li> <li>・外部講師による進路別講義などを実施し、早い時期からの進路意識の向上を図る。</li> <li>・3課程合同による進路研修等を実施する。</li> <li>・卒業年次の進路目標を明確化し、早期準備と具体的な受験対策指導を行う。</li> <li>・生徒への学力支援体制の確立を図る。</li> <li>・専攻科の特徴を周知するとともに就職先を新規に開拓する。</li> <li>・他分掌との連携及び役割分担の確立を図る。</li> </ul>
達成度	<p>H30.1/16 現在</p> <p>3課程：75.8% (昼間：83.0%、夜間：66.7%、通信：55.0%) *専攻科：21.9%</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3課程合同の進路研修(7/30,31 東京方面の大学等訪問)を新たに実施した。</li> <li>・3課程合同の教職員と生徒の座談会(通信)を実施した。</li> <li>・就職教室でダイト(株)生産本部長 浅野正幸氏による講演を行った。</li> <li>・出張授業で富山福祉短期大学看護学科教授 境美代子氏による講演を行った。</li> <li>・就職教室、書き方教室(看護)、進学教室、センター試験教室、スーツ着こなし教室、労働法に関する講話など、従来の方針の充実を図った。</li> <li>・卒業生による進路ガイダンスを実施した。(専攻科)</li> </ul>
評 価	<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べ就職希望生徒の内定率は高い。進学については一般選抜検査まで粘り強く取り組む生徒がおり、個別支援を継続している。進路未決定者・無業者は減少している。</li> <li>○昨年同時期[H29.1/13 現在]</li> <li>3課程 73.9% (昼間：83.3%、夜間：62.5%、通信：57.1%)</li> <li>*専攻科：29.7%</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の学生支援センターにおける取り組みを参考にできるとよい。</li> <li>・新しく始まった進路研修は価値ある取り組みである。今後も続けてほしい。</li> <li>・家庭での支援が得られにくい生徒も少なくない。進路指導部が他と連携して手厚い支援ができるよう願う。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査(修得単位数を追記)を通して早期に進路について考えさせ、受講登録などに反映させる。</li> <li>・外部講師による進路別講義や先輩による合格体験談の機会の増加をはかり、進路意識の向上を図る。</li> <li>・大学入学共通テストや進学用新調査書に関する情報を収集する。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	特別活動
重点課題	生徒が主体となる自主的な学校行事の推進
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動を効果的に行うための時間の確保が困難である。</li> <li>・生徒の多くは自主性に乏しく集団活動を苦手とし、学校行事の参加に消極的なため、参加形態や内容に工夫が必要である。</li> <li>・日程や校時の相違から、各課程間の交流の機会が極めて少ない。</li> </ul>
達成目標	・学園祭への参加生徒の満足度 85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が意欲的に取り組むことができるように、各課程の特色を活かすことを考慮する。また、様々な企画を例示し、自主的に活動しやすいような配慮を行うとともに、個々の生徒が充実感や達成感を得やすいような環境づくりに努める。</li> <li>・4課程合同の企画によって各課程間の相互理解を深めるとともに、県民カレッジ富山地区センターとの連携により、世代を超えた交流ができる貴重な機会としてとらえ、印象に残る学園祭となることを目指す。</li> </ul>
達成度	・参加して満足できた 全体：81%（昼79%・夜69%・通94%・専85%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同様、4課程・県民カレッジ富山地区センター合同の実行委員会および4課程合同の生徒実行委員会を実施し、学校全体としてより連携を密にして取り組んだ。</li> <li>・生徒実行委員会企画のバルーンゲート作製にあたり、全校生徒に呼びかけて協力依頼を行いつつ、一人一人が学園祭の主体者となれるように、意識の高揚に努めた。</li> <li>・従来からの実施形態を踏襲しつつ、各企画の要望をできるだけ取り入れ、それぞれが充実した活動を実践できるように努めた。</li> <li>・専攻科のフレンチレストラン等では一人一役以上を原則とし、責任をもって自己の役割を果たすことにより、達成感を味わうことのできるよう配慮した。</li> <li>・ステージ発表の進行は、一般の生徒有志が担当し、幅広く県民カレッジ富山地区センターとの交流を深めることができるよう配慮した。</li> </ul>
評 価	<p style="text-align: center;">C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の平均値は達成目標を少々下回ったが、前年度より4ポイント上昇した。それぞれの取り組みの成果であると考えている。</li> <li>・専攻科の企画においては、来校者からの称賛のことばが満足度に反映されたものと思われる。</li> <li>・通信制の満足度が非常に高いのは、希望者の参加であることが一因として考えられる。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の毎年開催は大変だろうが、つながりと言うことから考えると毎年開催が望ましい。</li> <li>・地域の方の参加が増えたように見える。生徒の側にも地域の方をもてなそうという雰囲気が見られるようになった。おもてなしの心をもつということは人として重要なことなので、こういう取り組みを大切にしてほしい。</li> </ul>
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの活動における生徒一人一人の役割を明確にする。</li> <li>・各企画が主体的に活動しやすいような取り組みを工夫しつつ、個々の活動においてより高い充実感や達成感を得ることができる環境を整える。</li> </ul>

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)